



三珠中学校校長室だより
令和7年8月29日発行
No.19 (弁論優勝記念号)
文責 校長 渡邊 康裕

三珠中HPはここから！



W優勝

鯉沢警察署管内中学生交通・防犯弁論大会

8月28日(木)の午後より、富士川町はくばく文化ホールにおいて、鯉沢警察署管内中学生交通・防犯弁論大会が行われました。HPで既にお伝えしました通り、本校2年生〇〇〇〇さんが交通安全弁論で、本校3年生〇〇〇さんが防犯弁論大会で見事優勝を飾りました！▼三珠中は昨日が2学期の始業式でした。2人は夏休み中に原稿を執筆し、暗記して表現力を鍛えてきました。昨日の始業式の後に2人の応援と練習を兼ねた発表会を行ったのですが、お世辞でも誇大表現でもなく、この短期間によくぞこの素晴らしい原稿を書き、表現力を身につけたものだと感じました。そして、その感動を伝えたくてHPに2人の弁論のさわりの部分をアップしました。まだご覧になってない人は是非ご覧になってください。今号では、2人の弁論の中身を紹介します。

交通安全弁論優勝作品 「未来ある命を守るために」 三珠中学校2年 〇〇 〇〇

私は、習い事に行くために、週一回、二十分かけて母に送り迎えをしてもらいます。また、夏休みの旅行などでも、父の運転で遠くに出かけます。車の中では家族で楽しく話したり、つい眠ってしまったりすることもあります。それほど、車の中は乗せてもらっている側として安心できる空間になっているのだと思いました。しかし、運転手はたくさんのことに注意しなくてはなりません。少し油断しただけで、大きな事故に繋がることがあるのです。その一つが「飲酒運転」だと私は考えます。そんな飲酒運転による事故のなかで、最も印象に残ったニュースがあります。▼それは、十九年前に福岡市で起こった事故です。海の中道大橋という橋で、大上さん一家五人を乗せた車が、飲酒運転の車に猛スピードで追突されました。一家の車は橋の下に転落しました。妻のかおりさんは、夫とともに何とか二人の子どもを助け出しました。そして、あと一人の子どもを探しに行くものの見つからず、海面から顔を出すと先に助け出した二人が沈みそうになっていたのです。▼二人を助けるか、もう一人を助けに行くか。私だったらとても怖くてすぐに決断することはできないでしょう。それでも、かおりさんは二人の子どもを助けるという決断をしたのです。しかし、その後、三人の子ども全員が息を引き取りました。かおりさんは一瞬で三人の家族を失ったのです。一人の、身勝手な飲酒運転によって……。この事故のあと、かおりさんはうつ病と診断されたそうです。どれだけ苦しかったでしょう。私には、想像しきれません。▼この事故を起こした犯人は、福岡市職員の二十代の男だったそうです。飲酒運転は、犯罪です。犯罪とわかっていなが

ら、なぜ、事故は起こってしまうのでしょうか。理由を調べてみると、「少しだから大丈夫」、「近い距離だから」などの認識の甘さが主な原因だとわかりました。

私の父と母もお酒を飲みます。でも、家族で出かけるときは車を利用せず、みな

で電車を使ったり、両親どちらかが運転できるように分担したりしています。実際、母にどう意識して運転しているか聞いてみたところ、「県内で起こっている事故のニュースを見て、自分も巻き込まれるかもしれない、そして自分が加害者になるかもしれないことを常に意識して運転している」と言っていました。当たり前のことを当たり前にすることで、私は交通事故から自分、そして人の命を守ることができるのだと、改めて思いました。▼今年の七月十四日、生き残ったかおりさんが高校生の前で当時のことを次のように語りました。「飲酒運転というのは自ら、自分が選んで犯している犯罪なんです。自分が選んで犯罪者になるんです。皆さんは、自分の意思で飲酒運転をしない大人になってほしいと思います。」▼本当に一瞬、あの瞬間に三人の命を奪い、一人の人生を壊した飲酒運転。事故を起こした人たちは口を揃えてこう言います。「少しの距離だから。」「もうお酒が抜けたと思ったから。」そんな軽い気持ちで運転して、最悪の場合、人の命を奪うことになるかもしれない。運転する人はそれを強く自覚しなければいけません。私は、中学二年生です。あと六年でお酒が飲める年齢になります。将来車を運転するときには、かおりさんの言葉を意識しようと強く決意しました。そして、飲酒運転の恐ろしさを、私たちが学び、伝えていきましょう。未来ある大切な命を守るために。





三珠中学校校長室だより
令和7年8月29日発行
No.19(弁論優勝記念号)
文責 校長 渡邊 康裕

三珠中HPはこちらから！



鯉沢警察署管内中学生交通・防犯弁論大会

防犯弁論優勝作品 「私たちが感じるべきもの」

三珠中学校3年 ○○ ○

「あっ、この写真いい、投稿しよう」「えっ、これキモっ、キモい草。送信、とっ」。このように何も考えずにSNSなどへ投稿したことはありませんか。そして、この後のことを考えたことはありますか。▼今から6年前、東京の池袋で高齢の運転手がブレーキとアクセルをふみ間違え、母子二人を死亡させる交通事故がありました。二人の遺族の松永拓也さんは、同じ悲しみをする人を無くしたいという思いから、このような事故を繰り返さないための活動を始めました。▼そんな中、昨年9月、ある一通のメールが松永さんに届きます。「死んで悲しいか？おつでーす。金目当てで草、死ねばいいのに。私が代わりに殺してあげようか」メールを送ったのは中学生、私達と同じ中学生なのです。▼もし、私が松永さんと同じ立場で、このような状況に直面したら、自分がやっていることは正しいのかと、自信を失ってしまうでしょう。▼しかし、松永さんは、脅迫メールに対してこうコメントしています。「この人にも、この人のためにも、送信ボタンを押す前に止まってほしかった。」と。▼松永さんにメールを送った中学生は、その動機について、悩みがあり脅迫メールを送れば警察が動き、相談に乗ってくれる場を紹介してくれると思ったから、と話しました。▼このニュースを一緒に見ていた父は、こう言いました。「同じ中学生の子を持つ親として苦しいな。悩みがあることは理解できるんだけど、送られた側の気持ちを感じられなかったのかな。○にも、よく考えてほしいニュースだな」と。私は、自分自身を振り返り、相談せず、関係のない家族にあたったこと、何気ない言葉で友だちを傷つけていたのではないかということ思い出し、相手の気持ちを感じることを後回しにしてしまったことに気がきました。▼SNSなどで不快な気持ちにさせるものを書き込み、ひどい時には相手を死に至らせてしまう、このようなことがなくなるのは、一体なぜでしょう。調べてみると 誰



でも簡単に発信できる環境、匿名性による責任感や危機感の欠如、自分が正義なのだという自負、の3つの理由があるそうです。誹謗中傷をする人は、私たちが感じるべきもの、つまり、画面の向こうの人にも、人権があるということに気づいていないのではないのでしょうか。私にも人権があり、あなたにも人権があるのです。▼大人、子ども関係なく、悩んだり困ったりすることはあります。しかし、あの中学生のように解消の方法を間違えば、相手の心を深く傷つけるだけでなく、死に至らせてしまうこともあるのです。だからこそ、どんなときも一度立ち止まり、相手の気持ちを自分に置き換え、みんなが寄り添うことができれば、あのような中学生の行動を防ぐことができたかもしれません。▼皆さん、自分の手を見つめてください。この手の、この指先たった一つの行動が、相手を幸せにすることがあれば、不幸にすることもあるのです。だからこそ、どう行動すべきか、私たちが感じるべきものを考えていきませんか。幸せな日常をつかんでいくのか。それはあなたの行動にかかっています。



第18回 鯉沢警察署管内 中学生防犯・交通弁論大会

